

第7回 三浦佳代子さん (富山大学)

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第7回目は、三浦佳代子さん (富山大学) にご執筆いただきました。

私は、神経心理学、臨床心理学を専門としています。博士論文では、パーキンソン病という神経変性疾患患者の神経心理機能について研究しました。なじみの薄い研究テーマ (領域) かもしれませんが、心理学を活かし、心理士が関わることが出来る領域の一つです。

そして、本来の専門領域から少しずれますが…現在、富山大学のエコチルセンターという部署で、エコチル調査 (子どもの健康と環境に関する全国調査) に携わっています。エコチル調査は、環境省が 2011 年にスタートさせた国家プロジェクトであり、全国 15 カ所のユニットセンターを拠点に 10 万人の子どもたちとその両親を対象に妊娠判明時から子どもが 13 歳になるまで追跡調査する出生コホート研究です。多くのユニットセンターで医師、看護師、助産師、保健師、そして心理士などが調査に関わっています。

このコラムを読んでいただき、心理学を専門とする者が活躍できる場所が、“こんなところにもあるんだ”ということを知っていただけると嬉しいです。そして、そのような場所をもっと開拓するため、若手の皆で、心理学の発展の可能性、そして貢献可能性を考えていけたらと思っています。

三浦佳代子さん

【ご所属】 富山大学エコチルユニットセンター

【ご連絡先】 miura@med.u-toyama.ac.jp